

2016年度日本語教育実習 最終レポート

1.初めに

過去にたくさんレポートを書いてきました。「日本語学概論」、「日本語教育方法論 1,2」「異文化間コミュニケーション」等、長きに渡って書いてきたのだなと感じました。それらのレポートを読んで振り返り、感じたことを綴りたいと思います。

2.三年間の振り返り

まず過去のレポートには、知識をインプットしてそれをレポートにアウトプットするレポートと、自分が実際に体験し、失敗したことや気づいた点を記すレポートの二種類がありました。

最初の知識のインプットとアウトプットのレポートに関しては、「こんなことを学んでいたのだなあ」と少し懐かしくなり、その当時の曖昧になっていた記憶が少し明確になった気がしました。特に「日本語教育方法論Ⅱ期期末レポート」では、授業のまとめ方について書いていました。それまでは良かったのですが、その観察対象が西南女学院大学の先生だったため、少し笑ってしまいました。さらには、先生の名前をそのまま書くのではなく、イニシャルで書いてあるため、この先生はどの先生だろうと考えながら読んでいました。当時の自分に対して、よくこんな調べ方をしたなあと思いましたが、内容は今では忘れてしまっていた大切なことが書いてあり、少し自分の襟を正さなければという思いに駆られました。その大切なこととは、「授業において、構成が大事であり、特に終わり方が一番大切である」というものです。なぜならば、終わり方が一番生徒の印象に残るため、どんなに内容がよくても終わり方がグダグダしていたら、あまり印象が良いとは言えないからです。これは授業をする上でも勿論大切なのですが、これはプレゼンテーション等にも言えるのではないかなと考えます。ですので、このことは自分の頭に強く叩き込んでおかなければならないと思いました。また、そのレポートには先生に対して、どのような印象を受けたかを書いてあったので、自分がこのようにしゃべりたい、人にこのように魅せたい、印象付けたいと思ったときにとっても役立つと感じました。

次に自分が実際に体験し、失敗したことや気づいた点を記すレポートについてです。全体的に見ると、基礎がまったく出来てないという印象です。例えば、笑顔ができていない等です。教科書に「授業中、学習者はずっと教師の顔を見ていますので、教師は自分の顔の表情に責任を持たなければなりません。特に笑顔については、上掲のような気持ちを学習者に生じさせるのですから、教師にとって『いい笑顔を見せる』責任は重大です。」と書いてあり、まさにその通りだなと感じました。このことは忘れがちになりつつありますが、きちんと胸に刻み、覚えておきたいです。又、笑顔ができてないということに関して教科書に書かれてあるのを見てハッとさせられました。「笑顔を邪魔する最大の障害は『ストレス』です。ストレスがなければ、誰しもより自然と笑顔になれるでしょう。しか

し、ストレス自体をなくすことはまず無理です。となると、ストレスは存在するものとして受け入れ、上手に交わすことが求められます」。この文言は、授業を行うときだけでなく、様々なことにも通じるものだなと思います。最近、「自分の気持ち次第で、状況は一転するものだ」と考えているので、この文言には頷きました。ですので、周りの状況のせいにせず、ストレスと向き合い、それをどうするかをしていかなければならないと考えます。不安はストレスを招きますので、自分が不安に思っていることを紙やホワイトボード等へ書き出し、それを一つずつ消していくという努力が必要だと考えます。そして、笑顔だけでなく、身体の向き等も出来ていませんでした。教科書によると「黒板の方に 40 パーセント、学習者の方に 60 パーセントを心がけて、身体を開くようにします。」と書かれており、これはこれからも意識していきたいなあと思えます。なぜならば、アイコンタクトが切れやすくなり、コミュニケーションが取りにくくなるからです。授業にしる、プレゼンテーションにしる、話し手だけが喋っているのではなく、その聞いている人とコミュニケーションをとっていると考えます。したがって、身体の向きを意識することは、コミュニケーションを取る上で必要不可欠だと強く感じました。

3.まとめ

過去の三年間に渡るレポートを読んで振り返ることにより、忘れがちな初心を思い出しました。特に三年の時の教育実習期間は様々なことが重なり、両立が難しく、何度も逃げ出したくなつたのを覚えています。状況のせいにしてはいけないとは思いつつも、状況のせいにしまい、自己嫌悪を繰り返すという負のサイクルを繰り返していました。でも、実習を通して学んだことはとても大きいと実感しております。準備期間がとても大変で、酷く疲れていても、生徒からの感謝の言葉や成長している様子を見ると、疲れが吹き飛び、このままではいけないと尻を叩いてくれる役割をしてくれていたと思います。実習で学んだことは、日本語を教えるという技術や経験だけでなく、ほんの少しですが、人としての成長ではなかったかと思えます。

又、上記に書いた笑顔や身体の向きに関しては、就職活動は勿論、社会に出た後でも使えることだと思います。私は将来、営業職に就きたいと考えています。ですので、お客様に良い印象を与えるためにも笑顔が必要不可欠だと考えているのですが、いかんせん緊張してしまい顔がこわばってしまいます。したがって、上記に書かれていた「笑顔を邪魔する最大の障害は『ストレス』です。ストレスがなければ、誰しもより自然と笑顔になれるでしょう。しかし、ストレス自体をなくすことはまず無理です。となると、ストレスは存在するものとして受け入れ、上手に交わすことが求められます。」と文言がとても役立つと考えています。一個ずつ不安を消して、練習を重ねれば絶対に成功すると思います。当たり前のことですが、初心に戻ることによって、もっと成長できると感じました。

また、身体の向きに関しては黒板の方に 40 パーセント、学習者の方に 60 パーセントはプレゼンテーションをするときにとても有効だと思います。上記にも書きましたが、プレ

ゼンテーションは発表者がただただ発表するのではなく、聞いている人とコミュニケーションを取りながらするものだと考えるからです。

4.これからの抱負

上記のまとめに従って、私は笑顔や身体の向きに気を使って、もっと上質なプレゼンテーションや授業をしたいと思いました。又、このように振り返ることにより、自分を客観的に見られ、ごちゃごちゃして、気持ちが荒れていても、落ち着いて一個ずつ片付けていけると思いました。ですので、自分の気持ちが焦っているときこそ、落ち着いて、一歩引きさがり、一つ一つ片づけていきたいと思いました。また、初心に帰ることにより、今よりも大きく成長できる気がするので、こまめに自分の書いたノートを見直す等をしていきたいと強く感じています。